

『慶應義塾 12-15-クル-報』創刊号 昭和28年6月発行

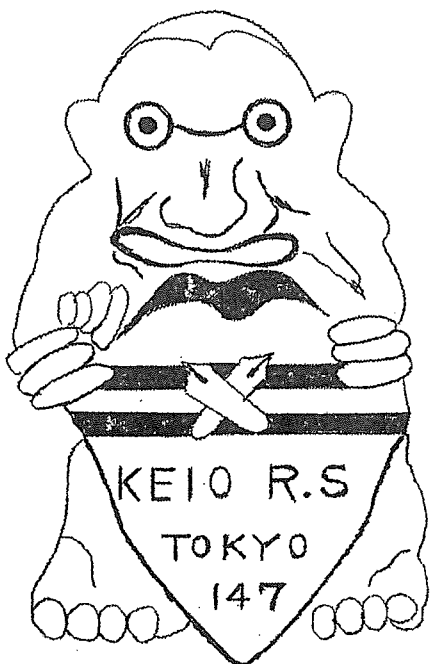
死魂故実抄 : 高 島 潔 :
(シニヨン)

我が慶応ローバー隊員の右腕にはちょっと他所では見られない珍しい形をしたマークが異彩をはなっている。これが光輝みてる我等のシンボルシニヨンであるがこれの由来、及びどうして慶応ローバーがこの怪物をシンボルに選んだかということについては知る人がすくないと思うのでこれのデザイン及び隊章へ推せんした私から少し説明させて頂きたいと思う。

(7)

(1) シニコーンとは何か。

一体シニコーンとは何物か。何故あのようなすざましい形相で我々をにらみつけているのだろうか。シニコーンが慶応義塾のシンボルとして



戦災で焼ける以前の三田大講堂の屋上左手に右手のユニコーンと共に地上をにらみつけていたことは戦前在学の先輩達の間で周知のことであるが、この古い西洋の象徴的怪物がどうして慶応にもちこまれ講堂の屋上に鎮座する事になったのかその経緯について知る人はまことにすくなく、勿論戦後に入学した私の知る由もない。従ってシニコーンと慶応義塾の因縁は、まことにその表情の如く全くの謎である。しかし想像するにこれはユニコーンと表裏一体をなすものと思われるのでユニコーンの正体をさぐってゆけば、それに伴ってある程度の推測はできようである。

ユニコーン(Unicorn)とは一角獣のことである。塾のシンボルになっているユニコーンは人間様の怪物に角をはやしたものであるが、本来は馬か鹿のような駿敏な動物を類にらせんをえがいた鋭い真直ぐな角を一本持っている。この動物は西洋では古来から神聖で不思議な靈獣として崇拜され、また種々の紋章等にもえがかれてきた。例えば英国王室の紋章には向って左手にライオン右手にユニコーンが王冠を戴いた盾をはさんで向かい合っている。このユニコーンはライオンの威光と共に教知を象徴するものもあり、またその他に王位の偉大さを表す数多くの意味をもっている。このユニコーンが真理を究める学問の殿堂を守る象徴として用いられる事は何ら奇異な点はない。レからばシニコーンはどうか。

一体、英語のどの大辞典をひも解いても *Sinicorn* という字句は見当たらない。我々がシニコーンという名であの怪物を呼ぶこと自体がすでに疑問なのである。私の想像では往事の塾生達が単純に、ユニコーンと対比し

でシニコーンという新造語を作ってしまったのだろうと思う。英語の辞典（英物にはない）をひもとくと *Sinister* という言葉を見出すことができる。これは古い雅語でその起源は古代スコットランドに行われたケルト語である。この言葉の最も基本的な意味は「左」ということで（それに対して右を表す語を *Dexter* という）その他種々の邪悪で陰性的な意味を持っている。古来左という概念は、善悪、陰陽のあらゆる対照的な概念のうち悪性の陰性の汚らわしい概念と切り離せない関係というより同一と云っても良い程密接な関係を有している。宗教的な意味においてことさら看るべく例えば回教徒が左手を不浄のものとして神事食事等に絶対に使用しない如く古くより世界的に行われてきた概念であり、また習慣である。この *Sinister* なる言葉が、具象的な意味で用いられる場合は、悪魔 妖鬼などと全く同義にして同様な容姿を持った魔物である。そしてこの *Sinister* がどれ等の邪悪を象徴する怪物として図画に、彫像に表わされる場合はそれに対する善なるものと並んで必ず左側に位置する。我々の云うシニコーンとはまさにこの — *Sinister* — にはあるまいか。そして且つての三田山上に、崇高なるユニコーンと並んで左側から陰惨なまなざしを我々の先輩達に投げかけていたのではないか。我々の先輩達はこの怪物の正体をいさかりながら *Sinister* の *Sini* と *Unicorn* の — *corn* をつなぎ合せてシニコーンなる新しい呼び名を作ってしまったのではないか。しかし、以上はあくまでも私の想像であって確たる根拠は何一つない。もし、ローバー諸君の中に確しかな起源を知っているか、または別な推定をしている人があればそれを承わるのは楽しみである。

(2) どうしてシニコーンが我々の隊章となったか

しかればどうしてそのようなシニコーンが少なくとも我々の知る限りにおいては全く良い意味を持たぬ悪魔の様な怪物が我々のシンボルとなったのだろうか。それにはこのシニコーンが慶応ローバーのマークとして取り上げられるまでの経緯を少し語る必要がある。私、即ちこのマークをデザインした犯人が慶応義塾のシンボルとしてのユニコーンとシニコーンを知ったのは慶応ローバーが結成されるかなり以前、即ち私がまだ慶応高校在学中の時であった。何年生の時だったか新学年に備えて教科書やノートを揃えたのだが、日吉の高校書店で十数冊のノートブックを色々ある中か

らその図柄の奇異さにひかれて、ユニコーンの絵が表紙にえがかれているのをひとまよめに買った。当時はこれが何んなのか全く知らず、また後にユニコーンと呼ばれる塾の象徴の一つと知っても取りたてて興味もなく従ってその十数冊のノートにえががかけられている怪物が実は二種類あったことに気が付いたのは、かなり長い期間を経た後であった。さて慶応ローバーが結成されるにあたり私もその一員として参加した。数回の会合を重ねた後隊章を制定する件が話題となり、鈴木高君（現在田季買）が作った幾つかの原案のうちの一つが採用されて最初の隊章となった。当時は日更に於て全面的な規約の改正が行われて居り制服及び徽章、標章もそれに従って改められたところであった。ローバーの隊章は寸法が定められた他は形、デザイン等全く自由とされたので当時の各隊において色々な美しい隊章ができてきた。鈴木君のデザインは仲々美しくしかも上品で我々のカラーにぴったりしたものであった。ところが次の理由でデザインに多少の修正を加えねばならない事になった。その一つはマークの大きさがすこし小さかったことである。これは小さい原因から奥物は少し引延して大きくするつもりだったのだが出来て来たものが原因のままの大きさのままだったのでせっかくのデザインの効果を割引してしまっていた事である。第二にはマ

ーク（ヤドリ形）の中に書かれている文字が KEIO ROVERS となっていた事

ROVERS という言葉がローバー隊を表す言葉として正式に用いないことになったので隊章の中にしるす文字としては適当でなくなっていたからである。そこで、この様な点を修正して作り直そうということになったのであるが、それ以前からユニコーンを隊章としたいという希望が鈴木君自身を始め皆の心中にあり、只、図柄が難しいという

理由でそのままになっていたのを隊章の改正に伴ってひとつユニコーンのデザインをしてみようと私は思い立ったのである。私は家に帰ると早速、例の高校時代のノートを引っ張り出しそれを手本にして作図を始めた。案



ずるより生むは易しと意外に簡単にユニコーンとしてついでにシニコーンのマークができ上がった。手本の図が両手で抱えているペンの微章をえがいた盾を鈴木君創案の矢じり形をそのままもってきて持たせかえたら誠に我ながら上出来の図案が二つ出来上がった。勿論私も当初は、あくまでもユニコーンを隊章にするつもりでありシニコーンは単に添えものとして試みにえがいたにすぎなかった。次の集会に図案を持参した処旨の賛同を得て直ちに各々の見本を作ってみることになった。出来上がってきた刺しゅうの見本をみるとユニコーンが刺しゅうの具合や原図の不鮮明から余り見覚えのない出来であったのに対しシニコーンのほうは全く予想もしない様な素晴らしい出来ばえを示していた。それまで複雑な図案を果して刺しゅうにしてうまく再現できるかどうか危ぶんでいた皆もこれなら申し分ないという事でいずれか一方を採用することに決定した。ところが、ではどっちを取るかという事になって意見が真二つになってしまった。大抵の人はユニコーンを採用することを主張した。それはユニコーンの意義、及び塾における象徴としてのユニコーンの存在位置からして当然の意見であった。しかし当時まだシニコーンの方について余り詳しい意義を知らなかった私は、創案者としての立場から期待以上に満足な出来ばえであったシニコーンを採用することを強く主張してゆからなかった。芸術的良心と云っては大げさだが私にはどうしても不満足なユニコーンを採用する気になれなかった私の強硬なシニコーン採用論はついに皆の容れるところとなり、ついにこれが慶応ローバーの隊章として採用される事に決定した。これが我々のシニコーンが出来上がった経緯である。鈴木君の作った矢じりの印は丁度隊章の一部の重要な部分として生きることになった。しかもその矢じりのマークは、我々がそれまで或期間使用して他の隊からも好評でありストックも沢山あったのでこれはこのままにしておくのは勿体ないので、それまで何もなかったネックテープの背につける事にした。これによりこの最もオリジナルなマークはそれまでより一層道所を得て効果的に注かされることになり、我々の服装上にさらに精彩を加える事になった。

現在使用中のシニコーンは原図及び最初の見本とくらべて表情及び色調が多少異っている。これは刺しゅう加工の工合いから言ってやむを得ない

事であるが今のものの様なすごみを帯びた感じは原図にはなかった。

私はこのシニコーンを見る度に回想する。もしシニコーンについてある程度研究してからマークを決定していたならば私自身決つてシニコーンを選ばなかったであろう。また、シニコーン、いゝ *Sinister* = 左という事からして右腕につけるべき隊章にシニコーンを選ぶ事はなかったろうと。しかし今ゝ我等のシニコーンは我々だけのものだ。我々にとってはそんな意味をはるかに越えたもつと深い愛着をこの怪物に抱いているはずだ。そして、いつまでも永久に廢廊ローバーが存続する限り例え私の存在は遠い昔のごとになり忘れ去られてしまつても私が残したこの怪物はいつまでも隊員諸君に愛され受けつがれていくであろう。そしてそうである限り私の心は廢廊ローバーから離れ去る事は決してないであろう。

最後に私は隊員諸君に御願する。若しこのユニコーン及びシニコーンの原図または最初の見本が保存されているならそれがなくても今後のマーク作成と支障を来たさぬ様にした上私に返してはいただけぬだろうか。これは私のわがままだが私にとってはこれは最も思い出深い貴重な品である為何んとか聞きとどけて欲しい。勿論、必要な時には何等でも差し出すにやぶさかでないからどうか宜しく御願する次第である。